

フランス語圏舞台芸術・文献目録 (2017)

北原まり子・堀切克洋（編）

1. 著作・翻訳

一般書

- 京谷啓徳『凱旋門と活人画の風俗史：儂きスペクタクルの力』講談社、2017年
- 馬淵明子『舞台の上のジャポニスム：演じられた幻想の〈日本女性〉』NHK出版、2017年
- 丸本隆、荻野静男、佐藤英、佐和田敬司、添田里子、長谷川悦朗、東晴美、森佳子『キーワードで読む：オペラ／音楽劇』アルテスパブリッシング、2017年
- 三木原浩史『随想・オペラ文化論：「カルメン」「サロメ」「イスの王様」「椿姫』彩流社、2017年
- クレール・パオラッチ『ダンスと音楽：躍動のヨーロッパ音楽文化誌』西久美子訳、アルテスパブリッシング、2017年
- 『ダンスマガジン（特集：オーレリ・デュボンとパリ・オペラ座バレエ）』2017年2月、新書館
- 『ダンスマガジン（特集：スターダンサー名鑑）』2017年4月、新書館
- 『ダンスマガジン（特集：パリ・オペラ座バレエ「ラ・シルフィード」「グラン・ガラ」）』2017年6月、新書館
- 『ダンスマガジン（特集：パリ・オペラ座バレエとロイヤル・バレエ）』2017年8月、新書館
- 『ダンスマガジン（特集：バレエ・スプリームパリ・オペラ座バレエ&ロイヤル・バレエ）』2017年10月、新書館
- 『ダンスマガジン（特集：ベジャールと永遠の名作「ボレロ」）』2017年11月、新書館
- 『ダンスマガジン（特集：シルヴィ・ギエム ベジャールと自らの現在を語る）』2017年12月
- 『ふらんす（特集：フランス・オペラへの誘い）』第92巻第1号、2017年1月
- Elizabeth Barféty (Auteur), Magalie Foutrier

(Illustrations), *20 allée de la danse : La tournée au Japon*, Paris : Nathan, 2017.

Armen Godel, *Le nô infini : cinq études, fragment d'une chronique, trois nô*, avec onze illustrations d'Isabelle Excoffier, Genève : Métis, 2017

François Laplantine, *Le Japon ou Le sens des extrêmes*, Paris : Pocket, 2017.

Fabrice Melquiot, *La grue du Japon*, Paris : l'Arche, 2017 (戯曲)

États provisoires du poème, no. 17, « Japon : poèmes et pensées en archipel », Devesset : Cheyne-Manier-Mellinette, 2017.

研究書・評論

- 白井史人、小松加奈編『越境する翻訳・翻案・異文化交流：日仏演劇国際シンポジウム』早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点、2017年
- 神山彰編『演劇のジャポニスム』森話社、2017年
- 澤田直編『異貌のパリ1919～1939：シュルレアリスム、黒人芸術、大衆文化』水声社、2017年
- 高橋康也『サミュエル・ベケット』白水社、2017年（新装版）
- 堀真理子『改訂を重ねる「ゴドーを待ちながら」：演出家としてのベケット』藤原書店、2017年
- 佐野勝也『フジタの白鳥：画家藤田嗣治の舞台美術』新宿書房、2017年
- 富田大介、梅原賢一郎、本間直樹、レジーヌ・ショピノ、高嶋慈、那須誠、瀧一郎他『身体感覚の旅：舞踊家レジーヌ・ショピノとパシフィックメルティングポット』大阪大学出版会、2017年
- 内藤義博『フランス・オペラの美学：音楽と言語の邂逅』水声社、2017年
- 森佳子『オペレッタの幕開け：オフエンバックと日本近代』青弓社、2017年

翻訳 (戯曲)

ジャン・ジロドゥ『ジャン・ジロドゥ (1) トロイ戦争は起こらない』岩切正一郎訳、早川書房、2017年

翻訳 (その他)

片山幹生「フルリ写本『ラザロの復活』劇(作者不詳,12世紀):翻訳と註解」『Etudes françaises』第24号、2017年3月、pp.42-59

ドノー・ド・ヴィゼ「ドノー・ド・ヴィゼの「喜劇『人間嫌い』について書かれた手紙」:その意義と翻訳」、鈴木暁訳、『専修人文論集』第101号、2017年、pp.225-246

アントナン・アルトー「アントナン・アルトー後期末翻訳テキスト ロデーズの新たなテキスト」、熊木淳訳、『三田文学』第96巻第128号、2017年、pp.18-22

——「アントナン・アルトー後期末翻訳テキスト ロデーズの新たなテキスト(第2回)」、熊木淳訳、『三田文学』第96巻第129号、2017年、pp.336-346

——「アントナン・アルトー後期末翻訳テキスト ロデーズの新たなテキスト(第3回)」、熊木淳訳、『三田文学』第96巻第130号、2017年、pp.246-254

——「アントナン・アルトー後期末翻訳テキスト ロデーズの新たなテキスト(第4回)」、熊木淳訳、『三田文学』第96巻第131号、2017年、pp.352-359

クルト・ヴァイス「クルト・ヴァイス『マラルメ:詩・格言・振舞い』(1)(翻訳)」、原山重信訳、『慶應義塾大学日吉紀要 フランス語フランス文学』第64号、2017年、pp.85-91

シルヴィアヌ・パジェス『欲望と誤解の舞踏:フランスが熱狂した日本のアヴァンギャルド』パトリック・ドゥヴォス監訳、北原まり子・宮川麻里子訳、慶應義塾大学出版会、2017年

2. 学術論文

演劇 (16~18世紀)

永井典克「愛、名誉、それとも栄光?:コンピュータ処理によるフランス古典主義演劇テキスト研究の試み(1)」『成城法学・教養論集』第27号、2017年、pp.43-67

太田文代「ラシーヌ『イフィジュニー』における劇作術」『人間文化研究科年報』第33号、奈良女子大

学大学院人間文化研究科、2017年、pp.1-15

松原陽子「ラ・ベルマの『フェードル』:別離の苦悩とラシーヌの詩句」『Stella』第36号、2017年、pp.135-143

榎本恵子「モリエールのドラマツルギー:プレリユード:『女房学校』論争」『コミュニケーション文化論集:大妻女子大学コミュニケーション文化学会機関誌』第15号、2017年、pp.15-34

日比野雅彦「人称代名詞「on」による表現から見た『タルチュフ』のエミールの存在について」『人間と環境』第8号、2017年、pp.1-17

浅谷眞弓「悲喜劇の復権:トマ・コルネイユとキノーを中心に」『経済志林』第84巻第3号、2017年、pp.171-190

鈴木彩絵「ラ・メナルディエールが提唱するエレジー的悲劇の概念について」『Les Lettres françaises』第37号、2017年、pp.1-11

廣岡江梨子「マリヴォー『うまくいった策略』における代替親子関係:道徳的恋愛喜劇の親子と主従」『仏文研究』第48号、2017年、pp.125-145

奥香織「タルマの舞台実践にみる革命期フランスの演劇美学:「真実であること」の探求をめぐって」『総合社会科学研究』、2017年、pp.1-18

演劇 (19・20世紀)

田口紀子「フランス・ロマン主義演劇と歴史叙述」『京都大學文學部研究紀要』第56号、2017年、pp.85-112

辻村永樹「グザヴィエ・フォルヌレ『失われた時』の演劇性について」『Etudes françaises』第24号、2017年、pp.77-93

岩本和子「マーテルランク「夢の研究」の謎:未知の世界との交感」『国際文化学研究』第48号、2017年、pp.17-48

近藤美紀「語りの地平:『ユビュ王』と『室内』に見られる演劇的語りの変奏(西村哲一先生退任記念号)」『青山フランス文学論集』復刊第26号、2017年、pp.89-110

松村悠子「バンヴィルと夢幻劇:『接吻』『巻き毛のリケ』について」『Etudes françaises』第24号、2017年、pp.111-125

佐々木菜緒「アンヌ・エベールの『魔宴の子供たち』における技法論:括弧による挿入語句と客観的

- 立場』『ケベック研究』第9号、2017年、pp. 75-88
- 西野絢子「クローデル作品の能劇化」『慶応義塾大学日吉紀要・フランス語フランス文学』第65号、2017年、pp. 79-100
- 根岸徹郎「ポール・クローデルの『女と影』と日本」『演劇のジャポニズム』神山彰編、森話社、2017年、pp. 163-192
- 番場寛「今なぜアルトールか?」『日本病跡学雑誌』第94号、2017年、pp. 43-45
- ファイヨル入江容子「カッサンドラの叫び、サラの叫び：サラ・コフマン『オールドネル通り、ラバ通り』に見る父の不在の痕跡」『女性空間』第34号、2017年、pp. 30-48
- 宇野邦一「アルトールの出現によって何が変化したのか」『立教映像身体学研究』第5号、2017年、pp. 118-128
- 「〈病跡〉の彼方のアルトール」『日本病跡学雑誌』第94号、2017年、pp. 46-49
- 江川隆男「骨と血からなる〈非-存在〉」『立教映像身体学研究』第5号、2017年、pp. 108-117
- 加藤敏「アルトールの精神障壁・思索：神による収奪から神との訣別へ」『日本病跡学雑誌』第94号、2017年、pp. 50-68
- 鈴木創士「アルトールと歴史の狂気：身体から抜け出した身体」『日本病跡学雑誌』第94号、2017年、pp. 69-75
- 堀切克洋「テキストの多様体：アルトールの魅力と難しさについて」『立教映像身体学研究』第5号、2017年、pp. 95-107
- 落合真裕「風習喜劇の仕掛け：『フランス語入門』における笑いとユーモア」『十文字学園女子大学紀要』第48号、2017年、pp. 123-133
- 石渡利康「シャンソン "La Rue des Blancs Manteaux" (『ブラン・マントー通り』) とサルトルの戯曲 "Huis Clos" (『閉ざされた扉』)」『日本情報ディレクター学会誌』第15号、2017年、pp. 160-164
- 田村哲也「『恋する虜』のイルビトの夜の場面の分析：ジュネにおける個人的な体験とパレスチナ革命の結合をめぐる」『Études de langue et littérature françaises』第110-111号、2017年、pp. 207-222
- 中田麻里「ジャン・ジュネ初期作品におけるジャンヌ・ダルク：——身体とその領有をめぐる——」『日本フランス語フランス文学会関東支部論集』第26号、仏文学会関東支部、2017年、pp. 31-44
- 清水さやか「身体と言語のはざまに響く歌のしらべ：——ベケット『事の次第』をめぐる——」『日本フランス語フランス文学会関東支部論集』第26号、2017年、pp. 45-60
- 「〈私〉はなぜ泣くのか?：ベケット『名づけえぬもの』における涙」『仏語仏文学研究』第50号、2017年、pp. 63-88
- 戸丸優作「大喜びするのに十分な脳が残されたら!：サミュエル・ベケット『モロイ』の運動と補綴的道具あるいは思考機械」『テキスト研究』第14号、2017年、pp. 37-56
- 森尚也「『無窓性』再考：サミュエル・ベケットの〈バロック的唯我論〉」『神戸女子大学文学部紀要』第50号、2017年、pp. 49-60
- 吉田隼人「回帰と反復：ジョルジュ・バタイユとジル・ドゥルーズの「演劇化」について」『表象・メディア研究』第7号、2017年、pp. 97-113
- 秋山伸子「フロリアン・ゼレール 仮面の愛：フランス演劇における真実と嘘の問題について（コルネイユ、モリエール、ギトリ作品との比較を交えながら）」『青山フランス文学論集』復刊第26号、2017年、pp. 111-132
- 岩切正一郎「舞台にのぼる翻訳（講演録）」『翻訳の文化／文化の翻訳』第12号、2017年3月、pp. 99-123

ダンス研究・オペラ研究

- 大山明子「17世紀フランスにおける「驚異」についての考察とシャルル・ペロー：ペローのオペラとお伽噺に関わる論考から」『関西フランス語フランス文学』第23号、2017年、pp. 15-26
- 川野恵子「C.F. メネストリエのバレエ論(1682)における模倣概念：構想の統一をめぐる」『日本18世紀学会年報』第32号、2017年6月、pp. 50-64
- 森立子「17~18世紀フランスにおけるオペラ＝バレエの初演状況」『日本女子体育大学紀要』第47号、2017年、pp. 125-131
- 赤塚健太郎「バロック時代のメヌエットの舞踏譜に記載された伴奏舞曲について：ヴァイオリンの運弓法と伴奏舞曲の出自の問題を踏まえて」『美学美術史論集』第21号、2017年3月、pp. 25-49

上利博規「バロック中期における舞曲の芸術化」『人文論集：静岡大学人文社会科学部社会学科・言語文化学科研究報告』第67巻第2号、2017年、pp. 1-21

笠原真理子「マスネのオペラ《マノン》における死の表象：赦しと楽園（死から生への眼差し）」『死生学年報』2017年、pp. 169-195

白川理恵「グルックのオペラ《アルセスト》を通じてルソーがオペラでめざしたもの」『Les Lettres françaises』第37号、2017年、pp. 13-24

寺西暢子「バレエの中のマノン：1830年5月3日初演の《マノン・レスコー》」『仏文研究』第48号、2017年、pp. 5-40

菊地章太「『ジゼル』におけるヴィリ伝承の変質」『ライフデザイン学研究』第13号、2017年、pp. 93-106

村上由美「印象派の画家たちとマラルメ：1870年代における踊り子への「まなざし」をめぐって」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第62号、2017年、pp. 203-214

戸梶江吏子「ムーシケーとしてのイサドラ・ダンカン舞踊(2)ダンカン舞踊のピアノ教育への活用」『鶴川女子短期大学研究紀要』第35号、2017年、pp. 91-100

松井裕美「レイモン・デュシャン＝ヴィヨンの作品における人体の躍動：抽象と具象、運動と情動、音楽と舞踏のあいだの往還(一九一〇～一三年)」『美術史』第66巻第2号、2017年、pp. 165-180

佐藤真知子「ニジンスキー《春の祭典》(1913年)の受容とその評価」『人間文化創成科学論叢』第20号、2017年、pp. 59-68

貫成人「踊りを翻訳する：バレエと暗黒舞踏を糸口に(公開シンポジウム「ことば」)」『文明と哲学：日独文化研究所年報』第9号、2017年、pp. 263-275

森島章仁「器官なき身体、衰滅の身体：アルトーと暗黒舞踏」『日本病跡学雑誌』第94号、2017年12月、pp. 76-86

北村卓「宝塚歌劇のフランス・イメージとテロリズム：近年の演目をめぐって」『表象と文化(言語文化共同研究プロジェクト)』第14号、2017年5月、pp. 43-49

今野真理子「舞踊芸術のアーカイブの現在：室伏鴻アーカイブ等を例に」『REAR = リア：芸術批評誌』

第39号、2017年、pp. 72-75

三輪亜希子「海外活動キャリアをもつ日本人ダンサーとコレオグラファーの関係を中心とした事例研究：ダンスカンパニーへの所属を通して」『尚美学園大学芸術情報研究』第26号、2017年、pp. 71-84

水村(久埜)真由美「日本と西洋の踊りの美しさの違い」『日本体育学会大会予稿集』第68号、2017年、pp. 39-39

松澤慶信「舞踊におけるロマン的なるものの美学的考察」『日本女子体育大学紀要』第47号、2017年、pp. 77-83

文化政策

穴澤万里子「アヴィニョン演劇祭が及ぼす経済的及び文化的影響」『日本大学芸術学部紀要』第65号、2017年、pp. 37-44

高橋信良「ベルギーの現代舞台芸術：教育機関の拡充と情報網の整備」『千葉大学国際教養学研究』第1号、2017年、pp. 27-37

日仏交流史・日仏比較文化論

西野絢子「『タンタジールの死』から『鐵門』へ：虚子によるメーテルランク翻案能」『慶応義塾大学日吉紀要 フランス語フランス文学』第64号、2017年、pp. 117-136

博士論文

Megumi Shichijo, *Les suites instrumentales issues des opéras de Lully publiées à Amsterdam : études historique, philologique et musicale sur l'éditeur Estienne Roger (1665/66 - 1722)*, Thèse de doctorat en Musique et musicologie, Soutenue le 24-01-2017 à Paris 4 en cotutelle avec l'Aichi university (Nagoya).

3. その他(解説・評論・エッセイなど)

青山薫「よみがえる「ホモセクシュアル」の亡霊：ルドルフ・ヌレエフ舞台の中止」『ピープルズ・プラン』第78号、2017年、pp. 91-97

荒井勉「オペラの楽しみ：マリア・カラスへのオマージュ」『法曹』第805号、2017年11月、pp. 2-10

リネア・イサクソン「Les Archives Internationales de la Danse (AID) 国際ダンスアーカイヴ」『Dance

- Archive Network』2017年6月24日
 石井達朗「フィリップ・ドゥクフレ演出・振付
 ミュージカル『わたしは真悟』』『ダンスマガジン』
 第4号、2017年4月号
 ニコラ・ヴィヨードル「フランス国立ダンスセン
 ター (CND)」『Dance Archive Network』 第8号、
 2017年1月9日
 梅津時比古「アートな時間 クラシック ラ・フォル・
 ジュルネ・オ・ジャポン 2017 ビギナーも、通も楽
 しめる3日間 今年のテーマは舞曲」『エコノミスト』
 第95巻第17号、2017年4月25日、pp. 101
 ——「アートな時間 クラシック モーリス・ベジャール
 ・バレエ団来日公演：革命的振付家ベジャール
 没後10年に生まれる新たな命」『エコノミスト』 第
 95巻第45号、2017年11月21日、pp. 97
 笈田ヨシ、桂真菜「オペラ『蝶々夫人』の演出に、
 アメリカに対する自らの思いをこめて」『悲劇喜劇』
 2017年1月号、pp. 149-153
 大竹しのぶ「演じ続けることで見えてくること：
 ミュージカル『にんじん』と演劇への思い」『悲劇
 喜劇』2017年9月号、pp. 32-35
 岡見さえ「リヨン・ダンス・ピエンナーレ」『ダン
 スマガジン』2017年1月号
 沖本【【書評】澤田直【編】『サルトル読本』
 (二〇一五年、法政大学出版局) 新しいサルトル像
 を求めて』『法政哲学』第13号、2017年、pp. 55-56
 オニール八菜「バレエ界のアカデミー賞「ブノワ賞」
 に輝き パリ・オペラ座のエトワールを目指す」『婦
 人公論』第102巻第2号、2017年1月24日、pp.
 48-51
 岸純信「《カルメン》の饗宴：新国立劇場と藤原歌
 劇団 二つの《カルメン》を徹底比較!」『音楽の友』
 第75巻第3号、2017年3月、pp. 28-31
 北原まり子「世界の DANCE NEWS! : 創立20年を
 迎えるフランス国立舞踏センター (CND)」『女子体
 育』第59巻、2017年4~5月、pp. 72-73
 鈴木亮平「インタビュー 言葉の裏に隠されている
 ものを掘り起こす：『トロイ戦争は起こらない』へ
 の挑戦」『悲劇喜劇』2017年11月号、pp. 62-67
 寺田元一「書評 富田和男『デイドロ 自然と藝術』」
 『日本18世紀学会年報』第32号、2017年、pp. 79-
 82
 長野由紀「Review カミーユ・ボワテル『ヨブの話
 ——善き人のいわれなき受難』』『ダンスマガジン』
 2017年1月号
 ——「日本公演演目ガイド 伝統と革新、フランス
 とアメリカ 「ラ・シルフィード」& 〈グラン・ガ
 ラ〉」『ダンスマガジン』2017年2月号
 ナタリー・ドゥセ、船越 清佳「海外特別インタ
 ヴュー ナタリー・ドゥセ オペラからの引退の理由
 そして新たな挑戦について語る」『レコード芸術』
 第66巻第4号、2017年4月、pp. 156-158
 林浩平「ドゥクフレ カンパニー DCA 『コンタク
 ト』」『ダンスマガジン』2017年2月号
 松木哲志、吉澤真、徳久礼子「Stage Review ミュ
 ジカル「わたしは真悟」：オープンデッキが生み出
 す近未来の音」『Stage sound journal』 第17巻第91
 号、2017年3号、pp. 34-43
 ジェラルール・マノニ「シエルカウイ振付『火の鳥』」
 『ダンスマガジン』2017年2月号
 ——「心を奪われるボラック&ルーヴェ/デュボン
 の選択、キリアン再発見」『ダンスマガジン』2017
 年2月号
 ——「パリ・オペラ座バレエの芸術監督」『ダン
 スマガジン』2017年2月号
 ——「公演レポート 対照的な2組の主演カップル」
 『ダンスマガジン』2017年3月号
 ——「パリ・オペラ座バレエ マグレガー振付『ツ
 リー・オヴ・コーズ』」『ダンスマガジン』2017年5
 月号
 ——「バランシン『真夏の夜の夢』」『ダンスマガジ
 ン』2017年6月号
 ——「パリ・オペラ座バレエ学校公演」『ダンスマ
 ガジン』2017年7月号
 毬矢まりえ「月は東に日は西に：俳句と西洋芸術
 (21) ポール・クローデル 劇作家・詩人・外交官」
 『俳壇』第34巻第2号、2017年2月、pp. 186-189
 満島直子「書評 田口卓臣『怪物的思考』：近代思
 想の転覆者デイドロ」『日本18世紀学会年報』第
 32号、2017年、pp. 77-79
 百田尚樹「覚醒するクラシック(第50回)ラ・ボ
 エーム：「青春群像モノ」のオペラを書いたプッチ
 ニの現代性」『Voice』第477号、2017年9月、pp.
 229-233
 山形治江「ギリシャで「ギリシャ劇」をみる：経済
 破綻が古代劇上演に与えた影響(続)」『テアトロ』

第926号、2017年1月、pp.16-20

吉田裕「東京バレエ団『ザ・カブキ』初演から30年：佐々木忠次追悼公演として、ベジャールの傑作を柄本弾、秋元康臣主演で上演 喝采を天に捧ぐ」『ダンスマガジン』2017年1月号

四方田犬彦「舞台は全世界：渡邊守章演出『緋子の靴』をめぐって」『新潮』第114巻第2号、2017年2月、pp.197-205

渡辺敦彦「パリ・オペラ座ケースマイケル演出オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』」『ダンスマガジン』2017年6月号

渡辺真弓「世界バレエのリーダー、パリ・オペラ座」『ダンスマガジン』2017年2月号

——「パリ・オペラ座バレエ学校 美しきエレガンスの秘密」『ダンスマガジン』2017年2月号

*誤記・遺漏がありましたら日仏演劇協会事務局まで情報をお寄せください。